高浜市立吉浜小学校

〈講話を聞く本校職員〉

〈 杉浦　渉先生による講話〉

〈７月１２日〉

授業名人の杉浦　渉先生を主題研究全体会にお招きし、「いつ、何を、どのように褒めて子どもを伸ばすか」という演題で講話をしていただきました。本校の教職員３５名中、経験年数が１０年未満の教職員が１５名と多く、授業に取り組む上で経験・指導技術ともに十分とは言えません。

そこで、授業を行う上での心と技について、具体的な実践を基に次のように具体的にお話していただき、たいへん有意義な研修を行うことができました。

① 褒める場合、むやみに褒めても効果は小さい。また、価値の方向付けをする褒め言葉を使わない。相手の立場を理解して褒めることが重要である。

② 子どもの追究力を生かす授業とは、考えを学習集団で練り上げる授業、価値を学習集団で見つけ合う授業である。点と点から線へ、自分の論理を創り上げる喜びを味わわせることが重要である。

③ 既習事項や体験を総動員して、自分の考えを伝え合う、話し合いの場が不可欠である。その際、つなぎ言葉を豊かにする授業を意識させる。

④ 授業の終了時（１分間）に、発言の仕方（つなぎ言葉）・発想の仕方・話し合いの仕方を具体的に褒める。